

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 7 月 24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200627		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・八木		
所在地	〒731-0101 広島県広島市安佐南区八木一丁目10番10号 (電話) (082) 830-2588		
自己評価作成日	平成25年6月6日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhvou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200627-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhvou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200627-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年7月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家庭的な雰囲気の中で入居者それぞれの個性を大切に、運営理念である「安らぎとよろこびのある日々を、その人らしくいつまでも」を基本として思いやりのある温かいサービスを提供している。また、一人ひとりの意思や能力、人生人格を尊重し、入居者の思いに寄り添い、柔軟に対応できるよう体制を整え散歩や買物など外出の機会を多く設けている。職員が楽しく働ける職場作りも行っている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>「安らぎとよろこびのある日々を、その人らしくいつまでも」をホームの理念とし、入居者の一人一人の「安らぎとよろこび」について話し合い、その人にあったサービスを提供するように努めている。ホームは一つの家であり、常に温かい雰囲気を作るようにし、職員は入居者を家族の一員であると考え接している。掃除や洗濯物干し食事の準備など入居者ができる作業と一緒にやっている。「職員が楽しく働けないと良いサービスを提供できない」との考えから、職員の働く環境を整備している。それにより職員に時間的なゆとりが生まれ、入居者とじっくり話をし、要望を実現するように努めている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホーム入口に事業所理念を掲げ、いつも目を通し、念頭におきながら実践できるよう努めている。また、確認を定期的に行っている。	ホームの理念「安らぎとよるこびのある日々をその人らしくいつまでも」とし、玄関に掲示されており、就業前に読んで確認している。なお、各入居者にとっての「安らぎ」と「よるこび」は何かをカンファレンスで話し合い、職員間で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の保育園の運動会見学や、町内会の掃除に参加、障害者支援を行っている。NPO法人との交流、また、買い物や散歩時に挨拶等行っている。	近所の保育園が、隣の公園で運動会の練習するのが縁で交流するようになり、運動会に入居者が招待されたり運営推進会議に保育園職員が出席するようになった。また町内会の清掃には入居者と職員が参加している。今後は、ホームに地域の人を招待し交流することを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症サポーター養成講座を行うなどしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議を通して、取組みなどの報告や話し合いを行い、出席者の意見などを基に外出レクに活かしたり、サービスの向上・実践につながるよう努めている。	定期的に運営推進会議を開催している。消防職員が出席した時には、避難方法について一緒に討議し、出された意見を参考にしている。運営推進会議の目的や重要性を職員や家族に伝え、より意義あるものにしたいと考えている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	定期的にホームの状況など伝えられるよう、連携を取るよう努めている。	地域包括支援センターが主催する「認知症サポーター養成講座」で、職員がグループホームについて説明し協力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>内部・外部研修などで具体的な行為を含め、身体拘束防止について理解し、職員間で共通意識を持ち取り組んでいる。</p>	<p>現在、身体拘束が必要な入居者はいないが、新入職員研修や外部研修に参加した資料を基に皆で勉強している。また、虐待に関しても、チェックリストを利用しチェックし、身体拘束しないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>内部・外部研修など行い、常に意識し細心の注意・防止に努め利用者や接するよう努めている。また、原因ともなる職員のストレス解消にも努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>内部研修などで学んでいる。必要性について話し合うこともあり。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>事前にも不安などをしっかり聞き、十分な説明を行い、理解・納得していただけるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>来所時や電話にて意見など聞けるよう努めている。また、利用者の意見などを話せる機会を設けている。</p>	<p>家族が訪問された際には、管理者や職員が応対し、要望を聞くようにしている。法人が有する施設でアンケート調査を行い、結果を家族に公表している。その中で出された意見については、職員と一緒に改善策を考え実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議や申し送り、また時間を設け面談など話を聞く機会を持ち、反映させている。	毎月のカンファレンスや個別面談で職員の意見を聞いている。職員からの意見により、夜間歩行の安全策について検討したこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談にて職員一人ひとりの意見を聞く機会を設けている。それぞれに役割をつける、また、資格取得に向けた支援や、目的意識を持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	なるべく外部研修に参加できるよう勤務体制を整えるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所との交流や意見交換などの機会を通じ、サービスの見直しの機会を得るようにしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面談や事前の体験入居を行うことにより、本人の希望や心配事など考慮しながら、信頼関係を築けるようにしている。また、家族の思いについても考慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族の希望や不安など十分な時間を取って、いつでも話せる機会を設け、信頼関係を築けるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人と家族の必要としている部分を考慮し、必要時には他のサービス利用も検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>普段の生活の中で利用者に教えてもらうことも多く、感謝の言葉を忘れないようにしている。また、本人の特徴を活かしながら、関係を作れるように心がけている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族との情報交換、また相談などコミュニケーションを図り、関係を築けるよう努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>利用者の思い出の場所に行ったり、友人との電話の支援など関係が途切れないよう努めている。</p>	<p>入居者から、「お墓参りに行きたい」「馴染みの人を訪ねたい」などの要望を職員が聞いたら、家族に話をし、対応してもらっている。知り合いへの電話や家族への手紙については、随時職員が手助けをしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>馴染みの関係が出来てきている。利用者同士の人間関係に配慮し、孤立しないよう食事作りや作品作り、外出などを通じて支援に努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>定期的なお見舞いや、家族が来所されるなど一定期間の継続的な関わりを行っている。</p>		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>本人と個別で話せる機会を持ち、コミュニケーションを通して、希望や意見にできるだけ沿えるようにしている。困難な方は、家族に相談するなどし対応している。</p>	<p>職員は日々の会話の中で、各人の思いや要望を把握し、外出の希望があれば、できるだけ早く希望先に出かけるようにしている。カラオケなどの趣味に関する要望については、職員と検討し実現できるようにしている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービスの経過等の把握に努めている。</p>	<p>本人や家族に今までの生活歴など確認を行い、個人ファイル等に記録を残し状況を把握している。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>記録を見たり、本人と関わることでそれぞれの状態・状況を常に意識し、把握に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月の職員会議や本人の希望、家族との相談、関係者の意見を基に作成を行っている。</p>	<p>介護計画作成者は、本人・家族・職員と面談したり介護記録を参考にしてケアプランのモニタリングを行っている。また、ケアプランの見直しについては、カンファレンスで職員の意見を聞き検討している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>利用者ごとの個別記録に気づきや本人の主張などを記入し、職員間で共有している。また、それに基づき意見交換や介護計画の見直しをしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個別に買い物に行ったり、また家族に会いに行ったりとその時の状況に応じて対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近隣の保育園との交流やボランティアの協力依頼、また、町内会・民生委員などと協働できるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>受診時や往診時、また必要時に相談をしたり、指導を受けられるようにしている。</p>	<p>主治医が2週間に1回往診し、訪問看護師が2週間に1回訪問し入居者の健康状態を把握している。入居者の健康状況が悪くなれば、医師に相談し対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	訪問看護師やかかりつけ医の看護師に日頃から相談するようにしている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	ケースは少ないが、入院前・入院中に医療関係者との情報交換や相談を行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	契約時に重度化した場合の対応について家族と話し合いをしている。その意見を基に今後の対策について決定するようにしている。	入居時には、「看取り等に関する指針」を家族に提示し説明を行っている。ホームでの看取りについては、主治医・家族・職員が容態について話し合いし、適切な対応するようにしている。また、入院・転院については、主治医と相談し支援している。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	緊急時マニュアルがあり、対応の仕方を学ぶ機会あり。実践力に欠けること多いため、定期的に勉強会や指導の必要性あり。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回以上避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署より指導を受けている。また、避難訓練に地域の方にも出席してもらうようにしている。	年に2回避難訓練を行い、そのうち1回は、地域住民や家族も参加している。また災害に備えて食料などを備蓄している。避難マニュアルは写真を添付し、職員が分かりやすく対応できるように工夫されており、事務室に掲示している。地域住民への災害時の協力体制も整っている。	避難マニュアル等は、整備されているが、今後は職員配置が少ない夜間の火災などの対応策を充実して頂きたい。まず、実際に夜間対応の避難訓練を行い、マニュアルを含めて具体的な対応策を作成し、災害に備えていただきたい。



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	目上の人としての尊厳を意識しながら、プライバシーを配慮した声かけや対応などを行っている。	プライバシーについては、開設時に研修を行ったが、今後は外部研修に参加しその資料を基に勉強会をする予定である。入居者の尊厳を尊重し、入居者をさん付けで呼びかけるなど言葉使いに気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の意思ができるだけ聞けるよう対応し、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望に応じて、できる限り一人ひとりのペースで過ごせるよう、買い物や散歩・ドライブなどを行うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服選びは本人と相談の上決めるようにしている。また、化粧される方の支援も行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物や調理、盛り付け、片付けなど一緒に行っている。季節行事や誕生日会では工夫を凝らした料理を出すようにしている。また、外食の機会もあり。	毎日の献立は、毎回入居者の要望を聞き、要望に応じた食事を作るようにしている。花見などの行事では、ノンアルコールの飲料を職員と一緒に楽しんでいる。お好み焼きの出前や外食をすることもある。なお、入居者は食事準備に積極的に関わっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養を考えしっかり摂取できるよう献立を決めている。また、適宜水分が摂れるよう支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアの声かけ・介助を行い、入れ歯の洗浄も実施している。また、必要に応じて訪問歯科の指導も受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>本人の状態や状況に応じて、トイレの声かけ、誘導、交換を定期的に行っている。</p>	<p>入居者一人一人の24時間の排泄時間・量・形状を詳しく記録し、トイレ誘導に役立て、それにより失禁の回数が少なくなってきた。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘予防のため、水分や乳製品、繊維質の摂取を献立に取り入れ、運動も実施している。便秘気味の方は服薬などで調整している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>毎日入浴したいなど利用者の希望を聞き、可能な限り対応できるようにしている。</p>	<p>通常2日に1回入浴しているが、本人の希望があれば、毎日入浴も可能である。入浴が嫌いな方については、疲れがひどいと入浴拒否をするなど原因を究明し対応策を講じたり、家族に入浴を手伝ってもらうこともある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室の環境整備、室温管理を行っている。また、日中の活動量を増やすなどの工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルあり、変更があった場合などに確認を行っている。状態も常に把握し、不明な点などあれば主治医や薬剤師に相談、また指導を受けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事作りや花の世話、掃除や作品作りなどそれぞれの得意分野を見つけ、役割を持って行えるよう支援している。また、レクや外出などで気分転換も図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	できるだけ本人の希望に応じ、買物や散歩、ドライブ等と出かけるようにしている。また、利用者の状況に合わせて、家族の協力の下に行っている。	外出希望のある方については、できるだけ希望に沿うようにしている。日常的にはほぼ毎日外出するようにし、暑い時期には、ドライブを楽しんでいる。また、週に2-3回食事の買出しに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	欲しいものや必要な物などを、買物時などに買えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望に合わせて電話をしたり、また定期的に手紙を出すなどの支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節感のある飾り付けや、展示物など利用者と一緒に工夫し、行うことで、居心地のいい空間を作っている。</p>	<p>入居者と一緒に床掃除をし、常に清潔を保つように心がけている。つねに家庭的な雰囲気を出したいと考え、リビングには音楽を流しやすくしてもらっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>気のあった利用者同士が穏やかに過ごせるよう、テーブル・席の配置の工夫をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>今までの環境とあまり変わらないよう、慣れ親しんだ家具など持参されている。また、本人好みの飾り付けや置物などで工夫されている。</p>	<p>慣れ親しんでいる物を持ってきてもらい、今までの生活と変わらない環境作りに努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりをつけ安全に配慮している。また、各居室に表札をつけたり、トイレなどの表示をし対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設理念として、「安らぎとよろこびのある日々をその人らしくいつまでも」を掲げ、その実現に向け、利用者様ならびに家族様のご希望に出来る限り沿ったサービスを提供できるよう職員と共有し業務にあたっている。地域交流として近隣の保育園との係わり合いを持ち交流を行なっている。	ホームの理念「安らぎとよろこびのある日々をその人らしくいつまでも」とし、玄関に掲示されており、就業前に読んで確認している。なお、各入居者にとっての「安らぎ」と「よろこび」は何かをカンファレンスで話し合い、職員間で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日々、利用者様とお散歩に行く際に、近隣のお店へ買い物へ行くことや、交流の深い保育園の運動会の見学に招待していただいている	近所の保育園が、隣の公園で運動会の練習するのが縁で交流するようになり、運動会に入居者が招待されたり運営推進会議に保育園職員が出席するようになった。また町内会の清掃には入居者と職員が参加している。今後は、ホームに地域の人を招待し交流することを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議に、町内会長や地域の保育園の先生、地域包括の方に毎回参加いただくことで、利用者様、ご家族様との交流の場を設けることが出来ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月おきに運営推進会議を行い、利用者様の現状や実施したイベントの報告、説明を行なっている。その際には地域の民生委員や地域包括支援センターの職員、保育園の先生、町内会長の方々に出席いただき、施設運営の理解を深めて頂いています。	定期的に運営推進会議を開催している。消防職員が出席した時には、避難方法について一緒に討議し、出された意見を参考にしている。運営推進会議の目的や重要性を職員や家族に伝え、より意義あるものにしたいと考えている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	安佐南区生活科の担当者の方などと、随時連携をとり、サービスの向上を目指している。	地域包括支援センターが主催する「認知症サポーター養成講座」で、職員がグループホームについて説明し協力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在、身体拘束が必要な利用者様がない為、必要は無いが、虐待・身体拘束のマニュアルもあり、オープン時には、職員の研修も行なっている。「どのように工夫したらよいか」を常に考え身体拘束をしないケアの実践を行なっている。	現在、身体拘束が必要な入居者はいないが、新入職員研修や外部研修に参加した資料を基に皆で勉強している。また、虐待に関しても、チェックリストを利用しチェックし、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員研修の実施を行い、職員が理解を深めるよう勤め、日々の観察に注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設理念として、「安らぎとよるこびのある日々をその人らしくいつまでも」を掲げて、その目標を実現できるように、管理者・職員が相談しながら行なっている。今後は、「成年後見制度」「権利擁護」についての研修へ職員に行ってもらい、その情報を施設に持ち帰り共有したいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には、必ず、訪問を行い、家族様・利用者様と話し合いの場を作っている。入居が決定した際には、契約書、重要事項説明書を基本とし、理解、納得をして頂けるよう説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様が来訪された際には、管理者・職員が意見を聞き入れ、可能な限りサービスを提供するよう努めている。運営推進会議の際には、家族様にスケジュールの説明を行い、ご意見を頂き運営に反映をさせている。	家族が訪問された際には、管理者や職員が話をし要望を聞くようにしている。法人が有する施設でアンケート調査を行い、結果を家族に公表している。その中で出された意見については、職員と一緒に改善策を考え実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月カンファレンスを開き、職員間の意見交換、サービスの統一・向上を図っている。日々の業務内容等は利用者様の思いやペースを酌めるよう職員の主導で行い、管理者はその調整を行なうようにしている。	毎月のカンファレンスや個別面談で職員の意見を聞いている。職員からの意見により、夜間歩行の安全策について検討したこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者が職員から、就労するにあたり不安や悩みを聞きだし話し合いを行い出来る限り解消に努めている。その都度、管理者は、上司に報告を行い会社として環境を整えるよう勤めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修として、全ての職員が救命講習に参加できるよう取り組んでいる。その他、職員のスキルを考え、必要な研修に参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他の事業所との交流の場として、先日ホーム長会議で話し合いであがった、「医療面での緊急時に対する対応」の研修を予定にしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者が安心して生活して頂けるよう配慮を工夫し、利用者同士での関係作りに努めている。入居時には、職員が利用者様の情報を共有できるようカンファレンス等で説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学や面接時に、家族の思いや利用者様の思いを聞き入れ、あらかじめサービスの内容に反映させている。施設の説明をしっかりと行い、理解して頂いた上で、出来る限りの不安を取り除き、要望等に対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前には、ケアマネージャーやご家族様（キーパーソン）としっかりと話し合い、本人様のアセスメントを作成し、職員が情報を共有できるようカンファレンスでの話し合いをおこなっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員には、利用者様の状態や心理状態を考慮した対応を行えるよう指導し、自尊心を傷つけないようサービスが行えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様との関係については、入居時に説明を行っているほか、ケアプランの中にも、「家族様との関係の維持」という項目をいれて、その都度、ケアプランの説明時には必ず「家族様の信頼関係の必要性」について説明を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご友人の来訪もあります。その他、家族様の対応になりますが、行き馴染みのある理容院へ行って頂いております。家族様と一緒に夕食や買い物の為、外出されるケースもあります。	入居者から、「お墓参りに行きたい」「馴染みの人を訪ねたい」などの要望を職員が聞いたら、家族に話をし、対応してもらっている。知り合いへの電話や家族への手紙については、随時職員が手助けをしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	デイルームの配席の見直しを行い、個々の状態や心理状態に合わせ、レクリエーションが出来るよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族様に連絡をいれ、退去後の生活状況を伺い、相談事があれば、話を聞き入れサポートを行うようにしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様との時間を大切に、出来るだけ会話をすることにより個々の思いや希望を取り入れるよう努めている。ホーム対応が困難な場合には、ご家族様に相談し本人に合わせた意向の検討を行っている。	職員は日々の会話の中で、各人の思いや要望を把握し、外出の希望があれば、できるだけ早く希望先に出かけるようにしている。カラオケなどの趣味に関する要望については、職員と検討し実現できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、本人・家族様と面談を行い生活歴や生活環境の情報を収集している。その他、担当のケアマネージャーより情報を入手するなど行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月のケアカンファレンス時に、管理者・職員間とで話し合い、利用者一人ひとりの検討を行い、サービスの向上・統一に努めている。リスクなど考慮しながら、利用者の身体レベルの現状維持を考えて出来ることを探して実行している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のケアカンファレンス時に、利用者様、家族様、関係者様の意見を出来る限り取り入れるよう、管理者と介護職員が話し合いを行い計画を作成するようにしている。</p>	<p>介護計画作成者は、本人・家族・職員と面談したり介護記録を参考にしてケアプランのモニタリングを行っている。また、ケアプランの見直しについては、カンファレンスで職員の意見を聞き検討している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>カンファレンス前には、職員一人ひとりが話し合いの議題を提出しそれを基に会議を実施する為、ケアの実践や結果などが統一でき反映できるようにしている。その他、職員用の連絡ノートを使いケアの実践、統一を図っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者様のニーズは、現在大方把握が出来てきたところであるが、認知症という症状もあるため、利用者様のペースでサービスを行うように心がけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>文化交流を図る為、地域のボランティアの方の協力を経て、オカリナクラブや理容院、ギタークラブなどに来ていただき、利用者に参加していただいている。秋には保育園の運動会の見学にも招待して頂き、利用者様も満足いただいている。今後は保育園児の来訪なども予定をしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>2週間毎に、八木の内科（上原内科クリニック）の先生に往診して頂いている。事前に利用者様の状態、ニーズを報告し、お薬の調整を行っている。血液検査等も定期的に行っている。</p>	<p>主治医が2週間に1回往診し、訪問看護師が2週間に1回訪問し入居者の健康状態を把握している。入居者の健康状況が悪くなれば、医師に相談し対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>主治医である内科の往診を記録し（医療受診記録）、その内容を、訪問看護の来所時に把握していただき、サインをもっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の対応は、ホーム長が対応をし、家族様や本人様の希望を聞き入れて、主治医である上原先生に相談を行い、出来るだけ早く退院しホームへ帰れるよう支援を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>「重度化した場合の指針」は、入居時に家族様に説明しサインをいただいている。常時、医療行為が必要な場合は、ホーム内の対応は難しい為、主治医に相談し入院先の手配、援助を行えるようにしている。</p>	<p>入居時には、「看取り等に関する指針」を家族に提示し説明を行っている。ホームでの看取りについては、主治医・家族・職員が容態について話し合いし、適切な対応するようにしている。また、入院・転院については、主治医と相談し支援する。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>利用者の急変に備え、マニュアルを作成している。内部研修である救命講習に参加し資格取得者が徐々に増えつつある</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>災害時について、開所時に研修を行ったほか、この度、避難訓練を行い、消防隊員の方に来ていただき、火事が起こったことを想定し、実際に施設外まで非難する訓練を行った。その他、消防隊員の指導の下「火災通報専用電話機」「消火器」の訓練を実施した。</p>	<p>年に2回避難訓練を行い、そのうち1回は、地域住民や家族も参加している。また災害に備えて食料などを備蓄している。避難マニュアルは写真を添付し職員が分かりやすく対応できるように工夫されており事務室に掲示している。地域住民への災害時の協力体制も整っている。</p>	<p>避難マニュアル等は、整備されているが、今後は職員配置が少ない夜間の火災などの対応策を充実して頂きたい。まず、実際に夜間対応の避難訓練を行い、マニュアルを含めて具体的な対応策を作成し、災害に備えていただきたい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「安らぎとよろこびのある日々をその人らしくいつまでも」を施設理念とし、個人のプライバシー並びに、誇りを深く理解し職務につくよう努めている。	プライバシーについては、開設時に研修を行ったが、今後は外部研修に参加しその資料を基に勉強会をする予定である。入居者の尊厳を尊重し、入居者をさん付けで呼びかけるなど言葉使いに気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	外出の希望に応じれるよう業務を組んでいる。食事に関してはメニュー表が無い為、順応できる。レク関係も見たいDVDをその日に借りてきてみたり、カラオケを行ったり、利用者の希望に対し出来るだけ対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の生活を安心して暮らして頂けるよう心がけ、利用者様のありのままの生活をして頂けるよう努め、職員の配備など工夫をしている。誕生日、の日に信頼を置いている職員と外食に行くなども実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎月、理容師に訪問して頂き、身だしなみやおしゃれに支援できるようにしている。利用者の洋服を職員と一緒に買い物に行き、選んで頂いたこともある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様が、好きな食べ物や季節の旬を考え提供するようにしている。突然の希望に対しても対応できるようメニュー表は作成せず、柔軟に対応している。食事準備も盛り付けや下ごしらえなどは手伝っていただいている。外食などの機会を設けている。	毎日の献立は、毎回入居者の要望を聞き、要望に応じた食事を作るようにしている。花見などの行事では、ノンアルコールの飲料を職員と一緒に楽しんでいる。お好み焼きの出前や外食をすることもある。なお、入居者は食事準備に積極的に関わっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	利用者様の食事量を毎日記録し、月に一度体重を測定し推移を観察している。利用者様の食べる量についても、それぞれ職員が把握し支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者様の自立支援を考慮し、声かけ等を行い支援している。隔週で訪問歯科に来ていただき、必要な方は受診をして頂き、口腔状態を保持、改善を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ええ排泄については、量、質、形状を確かめ、毎回グラフ化している。その習慣に合わせてケアすることが出来ているので、失禁の回数も軽減できている。夜間については、必要な方にポータブルトイレの使用を行い、本人様の負担も軽減できている。	入居者一人一人の24時間排泄時間・量・形状を詳しく記録し、トイレ誘導に役立て、それにより失禁の回数が少なくなってきた。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	一日の水分摂取量を把握し、声かけを行い水分をしっかりと取っていただくよう支援している。排泄チェック表により、利用者様の個々の排泄の習慣を把握し、ドクターに相談し、利用者様に合った処方をしてし対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴回数表を作成し、毎日記録することで入浴回数の把握をしている。利用者様に対する声かけの工夫を行うことで入浴をして頂いているが、拒否のある場合などについては、入浴日を変更するなどして対応している。	通常2日に1回入浴しているが、本人の希望があれば、毎日入浴も可能である。入浴が嫌いな方については、疲れがひどいと入浴拒否をするなど原因を究明し対応策を講じたり、家族に入浴を手伝ってもらうこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>利用者様のペースで生活して頂けるよう、個々の生活パターンを把握することで、1日の入眠時間を大切にしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>主治医が、隔週に往診に来てくださるので、そのときの、利用者様の状態や利用者の希望などを報告し、薬の調整を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>利用者様の趣向に合わせて、残存機能を保持できるよう支援する為、日常生活で行う、食事や、洗濯物、掃除など本人の活躍できることを見つけ、自信につながるよう生活支援をしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>季節や利用者様の体調に合わせて実施をしている。近くに公園もあるので、暖かい日などは数名でお散歩を楽しんだり、車での買い物に付き添って頂いたりしている。食事やおやつなども外食を全員でいき楽しんで頂いている。秋の紅葉狩りなどのイベントも開き、気分転換をして頂いている。</p>	<p>外出希望のある方については、できるだけ希望に沿うようにしている。日常的にはほぼ毎日外出するようにし、暑い時期には、ドライブを楽しんでいる。また、週に2-3回食事の買出しに出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>買い物に行った際には、本人がレジでお支払をして頂くようにしている。一人ひとりの希望に応じることが出来るよう、職員体制を整えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話については、制限を設けておらず、利用者様の希望する場所へ電話の援助を行っている。携帯電話を居室で使用される利用者様や手紙をかかれる利用者様もいらっしゃる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設の雰囲気を抑え、極力家庭的な雰囲気を演出し、利用者様が戸惑わないよう配慮を行っている。採光については、自然の光に触れて頂けるよう、採光窓も設置している。	入居者と一緒に床掃除をし、常に清潔を保つように心がけている。つねに家庭的な雰囲気を出したいと考え、リビングには音楽を流しつろいでもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様の個々の趣向や、生活のペース、身体レベルを職員が把握し、カンファレンス時に話し合い、ダイルームの配席は定期的な見直しを行い、利用者様同士が支えあえる環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様が生活しやすいよう、出来るだけ馴染みのある家具を使用頂き、居室の環境整備に努めている。また、家族様の要望も聞き入れ、生活者が主体的に生活出来るよう配慮を行っている。あわせて、重度化していく利用者様の居室のレイアウトも改善し、カンファレンスを基に、プランニングに導入している。	慣れ親しんでいる物を持ってきてもらい、今までの生活と替わらない環境を作りたいと考えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーの造りになっており、車椅子での自走や杖歩行などで十分に移動できる広さを保っている。トイレ内は全て手すりが設置しており、広さも車椅子のままでも中へ入ることが出来る。施設内では壁に手すりを設け、安全に歩行して頂けるような設備を整えている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない



64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	レ	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	レ	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	レ	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	レ	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	レ	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	レ	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	レ	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	レ	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	レ	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	レ	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	レ	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	レ	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	レ	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・八木①

作成日 平成25年8月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	夜間における災害時などの避難体制ができていない。	マニュアルに沿った避難体制を全職員が周知し、行えるようにする。	夜間想定 of 避難訓練を行い、具体的な対応策を会議などで話し合い確立する。	6ヶ月
2	2	地域とのつながりがまだ少ない。	事業所が地域の一員として地域と交流できるようにする。	今まで以上に地域行事に参加、また、地域住民の方に挨拶や話をすることで事業所との関係を縮めていく。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・八木②

作成日 平成25年8月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域の付き合い	普段の生活やイベント時などで、コミュニケーションをとり、交流を深める。	お散歩や買い物時などの外出の機会があるので挨拶やお話をして交流を深める。	6ヶ月
2	35	災害対策	職員配置が少ない夜間の火災などの対応策を充実させていく。	防災教育として、夜間の火災を想定した研修へ職員に行ってもらい、カンファレンス時に発表を行ってもらう	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。